

日本産コナチャタテ属数種の学名和名について

田 中 和 夫¹⁾

Notes on the Scientific and Japanese Names of Some Species
of the Genus *Liposcelis* from Japan
(Psocoptera : Liposcelididae)

Kazuo TANAKA

九大昆虫・野生生研センター (1989) 及び富田芳賀 (1991) の目録には、共に6種のコナチャタテ類が採録されている。近年のヨーロッパ諸専門家の研究によると、いくつかの種について扱いの変更が必要と思われるので、ここに紹介し合せて私見を述べたいと思う。

文献入手に際しお世話になった、農業環境技術研究所松村雄博士、他、昆虫分類研究室の諸氏、九州大学中村剛之氏、及び東京農業大学立川周二助教授、他、昆虫研究室の諸氏にお礼申しあげる次第である。

I. *Liposcelis* という語の文法上の問題

Lienhard (1990) によると、このコナチャタテ属の学名は、ギリシャ語の lipo=脂肪、及び scelis (女性形名詞)=ハム、の合成語で、コナチャタテ類の肥大した後腿節からの連想で作られたものという。この語は命名者の Motschulsky (1852) 以来、多くの学者に男性形として扱われて来たが (Metcalf et al., 1962, のように女性形の扱いをしている者もある)、実は女性形であったので、本属に属する種の種小名は全て女性形に改めなければならない。

科名は国際動物命名規約第3版 (1985) によると、ギリシャ語の場合、模式属名の単数属格の活用語尾をとった語幹に idae をつけて作られる。scelis の単数属格は辞典にあたってみると scelidos なので、従ってコナチャタテムシ科の科名は Liposcelididae となり、Lienhard (1990) の指摘

の通り、Liposcelidae と綴るのは誤りで Liposcelididae が正しい。

II. *Liposcelis divinatoria* (Müller, 1776) について

ヨーロッパでは古くから知られている種で、特に害虫関係の書では屋内性チャタテムシ類の代表的扱いとなっていることが多い。Broadhead (1950) は本種は原記載からは同定不可能で、タイプ標本も見つからず、又、古くから多くの文献に現われた *L. divinatoria* には複数の種が含まれている様だと述べている。筆者は Müller の原記載は見えないが、Pearman (1946) に拠ると、複眼と口部の色しか書かれていないという。以来、多くの学者により、分類学上この種は nomen dubium とされてきた。Lienhard (1990) も、この種のタイプ標本は存在しないと述べている。一部の応用昆虫学的報文などには、相変わらずこの学名を使用している例があるが、分類学的根拠のあるものとは見なされていない。日本でこの種に初めて言及したのは松村 (1898) と思われ、“こなむし (*Troctes divinatorius* Müll.)” の名を挙げ図示し、簡単な記載を与えたが、触角を19節としている所が *Liposcelis* の種に合わない。岡本 (1906) は日本産チャタテムシの目録の中で、本科 Troctidae (=Liposcelididae) に初めて粉茶柱蟲科という和名を与え、*T. divinatorius* 一種のみを採録し、和名を“こなむし又はこなちゃたて”とした。これより先の松村 (1904) ではチャタテムシは科の解説のみで種は取扱われておらず、松村 (1899

¹⁾ 〒228-0814 相模市南台2-1-39-208

; 1906) には“こなむし”が使用されている。上記岡本 (1906) 以前にコナチャタテという和名が使われたかどうか突きとめられなかった。以後、松村 (1909; 1931; 1932), 三宅 (1919), 松本 (1941) がコナチャタテ類に触れているが、全て *divinatoria* のみを挙げ、コナチャタテ類の他の種には言及しておらず、又、和名はコナチャタテ又はコナチャタテムシを用いている。佐藤 (1950) は“*Troctes divinatoria* Mull. コナチャタテムシ (松村)”と共に *Troctes corrodens* Heym. をリストに載せたが、彼自身が述べている様に、この報告は Cotton & Good (1937) によって貯穀害虫のリストとしたもので、又、後者の分布地にドイツのみを挙げており、日本の材料に基づいているか否か疑わしい。又、前者の異名として *Troctes pulsatorius* (現在、別亜目、別属の *Trogium pulsatorium*) が挙げられており、この時代の一般的傾向として、*Troctes divinatorius* が如何なる虫をさすものか判然とししない。尚、1950年代以後にコナチャタテ類の分類を本格的に研究した多田 (1956-1962), 堤 (1965, 1971) は *L. divinatoria* には全く言及していない。冒頭で述べた最近の日本産種の目録には共に“*Liposcelis divinatorius* (Müller, 1775) コナチャタテ”が採録されている。分布は“日本; 汎世界”となっている点も同じで、恐らく富田・芳賀 (1991) は九大昆虫・野生生研センター (1989) に倣ったものであろう。そして、それは、それまでの諸論文と共に、松村 (1898) 以来の種名を踏襲してきたにすぎないものと思われる。結局、*L. divinatoria* は確かな分類学的根拠をもって記録されたものではなく、屋内性コナチャタテ類の代表種のような扱いで、やはり複数の種が含まれているようであり、日本でも同様 *nomen dubium* である。又、和名のコナチャタテは、無用の誤用、混乱を避けるために *Liposcelis* 属の如何なる種にも使わない方が良くと思われる。

Ⅲ. *Liposcelis simulans* Broadhead, 1950, Race A 及び Race B について

Broadhead (1950) は“*Liposcelis simulans* sp. n. Race A”及び“*Liposcelis simulans* sp. n. Race

B”の名の下に、それぞれ詳細な記載を与え、図を添え、タイプ指定を行った。何れの形式内容とも、新種の記載として完全なものと考えられる。

Pearman (1951) は *simulans* Race A を *kidderi* Hagen, 1883 の synonym としたが、この論文では *simulans* Race B には全く言及していない。これに対する反論として Broadhead (1952) は、*kidderi* と *simulans* Race A が同種か別種かという論議はせず、単に、*kidderi* の原記載が簡単で、この種を識別するに足るだけのものがないという理由で、*kidderi* のタイプ標本が見つかるまでは、これを *incertae sedis* として扱っておくべきで、現状では *simulans* を使った方がよいと主張した。これに対する再反論として Pearman (1952) は、Hagen の原記載にはサイズ、色彩、体表彫刻、腹部末端の剛毛、複眼の個眼数などが記されていて同定可能とし、形態的に異なる二つの種を同じ *simulans* の名の下に扱って混乱を招くより、そのうちの一つ Race A に *kidderi* を当てた方が得策であると主張した。

Pearman (1952) のいう“形態的に異なる二つの種”とは Race A と Race B を指していると考えられ、従って、Race A と Race B が同種の別 race でなく別種であることが、この論文で初めて指摘されたことになる。そうすると、これは第一次の異種同名となって、何れか一つは無効名として永久に破棄されなければならない。ここで何れを junior homonym とするかが問題となるわけであるが、両者は同一論文上で同時に記載された為、その判定は1961年の国際動物命名規約以後の規約に明瞭に規定された 1st reviser の判定に懸ることになる。Lienhard (1977) は、上記 Pearman (1951, 1952) を 1st reviser として、この時点で Race A の方の *simulans* が永久に破棄されたと考えた。しかし、この時代の命名規約は1972年版の万国動物命名規約であると考えられ、事実、Pearman, Broadhead 共にこの議論に命名規約を引用しているが、それは1927年版の規約である。江崎 (1930) の全訳によると、この規約には homonym に関しては 1st reviser の規定はおろか、言葉も考え方も現われていない。(その考え方は、属の模式種の判定の所に現われている)。

規約を遡って適用し Pearman を 1st reviser とすることに疑義はあるし、Pearman のこの一連の論議では、両 race が homonym であるということも、又、*simulans* という名をどう扱うかについても明確に述べておらず、reviser としては甚だ不完全なものである。その後、全世界のチャタテムシの目録を編纂した Smithers (1967) は Pearman の説に従い、Race A を *kidderi* の synonym として扱い、Race B に *simulans* の名を残した。中欧のチャタテムシをまとめた Günther (1974) も同様の扱いをしているが、彼らは二人とも単に学名を列挙しただけで、この問題について論評を全くしていない。従って reviser に値しないと考えられる。前記の Lienhard (1977) は、Broadhead 以来の上記の諸学者の論文を詳細に論議し、Pearman の説を支持することを明確に述べ、Race A の *simulans* を *kidderi* の synonym とし、Race B の *simulans* を残した。そこで、Lienhard (1977) は自分自身をそう思わなかったとしても、reviser としての役目を果たしたと考えて良いであろう。従って Race A の *simulans* は、仮に Pearman を 1st reviser と認めないとしても、少なくとも 1977 年の時点で junior primary homonym として永久に破棄されたと見なされる。

Lienhard (1990) は旧北区西部の *Liposcelis* の再検討を行ったが、この論文では前論文 (1977) と異なり、Race A が *L. kidderi* と同種であるという Pearman の見解を否定し、この両種は別種であるとし、Race A の *simulans* を復活させることは既にできないので、新たに *pearmani* という名を提唱した。そして逆に、Race B を *L. decolor* の synonym としたので、*simulans* という我々にとって親しみ深い名は全く姿を消すことになった。

Pearman (1946-1952), Broadhead (1950), Lienhard (1977, 1990) と再三学名の変更があったが、その当否を各種のタイプ標本に基づき検証することは筆者の力の及ぶ所ではないので、ここでは最も新しい Lienhard (1990) によって、日本のコナチャタテ属 5 種の学名を整理して次に示す。synonym は良く使われたことのあるものみに止めた。

Family LIPOSCELIDIDAE

コナチャタテムシ科

Genus *Liposcelis* Motschulsky コナチャタテ属

1. *L. bostrichophila* Badonnel, 1931
= *granicola* Broadhead & Hobby, 1944
ヒラタチャタテ (朝比奈・多田, 1956)
分布：北海道, 本州; インド, 西アジア, ヨーロッパ, 南北アメリカ, オーストラリア, アフリカ, マダガスカル。
2. *L. corrodens* (Heymons, 1909)
= *subfusca* Broadhead, 1947
ウスグロチャタテ (多田, 1959)
分布：本州; ヨーロッパ, 北アメリカ, チリ。
3. *L. decolor* (Pearman, 1925)
= *terricola* Badonnel, 1945
= *simulans* Broadhead, 1950, Race B
ホンチャタテ (田中・高木 1996)
分布：本州; モンゴル, トルコ, ヨーロッパ, U.S.A., アルゼンチン, オーストラリア, アフリカ, マダガスカル。
本種は和名が与えられていなかったのに、嘗て使用されたことがあるが、どの種を指すものか正確に特定できなかったホンチャタテ (本茶柱虫) を田中・高木 (1996) が復活してこれに当てた。書籍にしばしば発見されることによる。尚、*simulans* Race B が *terricola* と一致することは、既に多田 (1962) が指摘している。
九大昆虫・野生研センター (1989) 及び富田・芳賀 (1991) 共に *kidderi* には和名を与えず、*simulans* にソーメンチャタテの和名を付しているが、この *kidderi* は *simulans* Race A と同物と見なされた *kidderi* であると思われ、単なる *simulans* の方は *simulans* Race B と思われる。朝比奈・多田 (1956) のソーメンチャタテは Race A の方に付けられたものであることは明瞭に記されているので、Race A に該当する *pearmani* の方にソーメンチャタテを使用すべきである。
4. *L. entomophila* (Enderlein, 1907)
カツブシチャタテ (朝比奈・多田, 1956)
分布：本州; フィリピン, インド, イスラエ

ル, ヨーロッパ, U.S.A., 中央及び南アメリカ, ニュー・ヘブリデス, オーストラリア, アフリカ, マダガスカル。

5. *L. pearmani* Lienhard, 1990

= *simulans* Broadhead, 1950, Race A
= *kidderi* (Hagen) sensu Pearman, 1951
ソーメンチャタテ (朝比奈・多田, 1956)
分布: 本州; ヨーロッパ, U.S.A.

Nomen dubium

Liposcelis divinatoria (Müller, 1776)

コナムシ (松村1898), コナチャタテ (岡本1906)

以上, 5種とも屋内性種で, 日本国内に広く分布していると思われるが, ここでは見落としはあると思うけれども, 明確に報告された分布地だけを挙げた。尚, 野外性の*Liposcelis*の種は, ヨーロッパ, アメリカなどでは何種類も発見されているが, 日本では今の所, 一種も記録されていない。

引用文献

- 1) 朝比奈・多田, 1956. 家庭害虫 *Liposcelis* について. 衛生動物 7(2): 110 (abstract).
- 2) Broadhead, E., 1950. A revision of the genus *Liposcelis* Motschulsky with notes on the position of this genus in the order Corrodentia and on the variability of ten *Liposcelis* species. Trans. R. Ent. Soc. Lond. 101(10): 335-388, 3 pls.
- 3) ———, 1952. The nomenclature of some British Psocoptera. Ent. Monthly Mag. 88: 83.
- 4) Cotton, R. T. & Good, N. E., 1937. Annotated list of the insects and mites associated with stored grain and cereal products, and of their Arthropod parasites and predators. U.S.D.A., Misc. Publ. No. 258, 81pp.
- 5) 江崎悌三, 1930. 動物命名規約. 岩波講座生物学 (特殊問題), 41pp.
- 6) Günther, K. K., 1974. Staubläuse, Psocoptera. Die Tierwelt Deutschlands, 61. Teil. Gustav Fischer. (p. 112, 120)
- 7) 九大昆虫・野性生研センター, 1989. 日本昆虫総目録, I. (p. 62)
- 8) Lienhard, C., 1977. Die Psocopteren des schweizerischen Nationalparks und seiner Umgebung (Insecta: Psocoptera). Egebn. wiss. Unters. schweiz. Natn-Park, 14(75): 415-551.
- 9) ———, 1990. Revision of the western Palaearctic species of *Liposcelis* Motschulsky (Psocoptera: Liposcelidae). Zool. Jb. Syst. 177: 117-174.
- 10) 松本賢吉, 1941. 日本産既知嚙蟲目録. 昆虫15(3): 127-131.
- 11) 松村松年, 1898. 日本昆虫学. 裳華房. (p. 54-55)
- 12) ———, 1899. 日本害蟲篇 下卷. 裳華房. (p. 498)
- 13) ———, 1904. 日本千蟲図解 第一. 警醒社 (p. 25-26)
- 14) ———, 1906. 日本害蟲目録 全. 六盟館. (p. 2)
- 15) ———, 1909. 大日本害蟲全書 前編. 六盟館. (p. 74-75)
- 16) ———, 1931. 日本昆虫大図鑑. 刀江書院 (p. 1404)
- 17) ———, 1932. 大日本害蟲図鑑 明治図書. (p. 67)
- 18) Metcalf, C. L., & Flint, W. P., 1962. Destructive and useful insects, their habits and control. 4th ed. McGraw-Hill. (p. 209)
- 19) 三宅恆方, 1919. 昆虫学汎論 下卷. 裳華房. (p. 637)
- 20) Motschulsky, V. de, 1852. Excursions entomologique de 1852, jusqu'au Juillet. Etudes Entomologiques, Helsingfors, p. 15-21.
- 21) 岡本半次郎, 1906. 己知本邦産嚙蟲目録. 札幌博物学会会報 1(2): 197-199.
- 22) Pearman, J. V., 1946. A specific characterization of *Liposcelis divinatorius* (Müller) and *mendax* sp. n. (Psocoptera). Entomologist 79: 235-244.
- 23) ———, 1951. Additional species of British Psocoptera. Ent. Monthly Mag. 87: 84-89.
- 24) ———, 1952. Nomenclature of some British Psocoptera. Ent. Monthly Mag. 88: 150.
- 25) 佐藤覚, 1950. 貯蔵禾穀類に発見される昆虫及び

- だに類目録. 植物防疫資料 第3号, 65pp (p. 54-55)
- 26) Smithers, C. N., 1967. A catalogue of the Psocoptera of the world. Austr. Zool. 14(1): 1-145. (p.26-27)
- 27) 多田茂子, 1956. 貯蔵物資害虫としての茶柱虫類に関する研究 第一報. 衛生動物 7: 195-202.
- 28) ———, 1959. 貯蔵物資害虫としての茶柱虫類に関する研究 第二報. 衛生動物 10: 35-40.
- 29) ———, 1962. 貯蔵物資害虫としての茶柱虫類に関する研究 第三報. 衛生動物 13: 100-104.
- 30) 富田康弘・羽賀和夫, 1991. 日本産チャタテムシ目の目録と検索表. 菅平研報 (12): 35-54.
- 31) 堤千里, 1965. 原色昆虫大図鑑. 北隆館. (p. 65)
- 32) ———, 1971. 動物系統分類学 7 (下B). 中山書店. (p. 253)
- 33) International code of zoological nomenclature, adopted by the XV International Congress of Zoology, 1964.
- 34) International code of zoological nomenclature, third edition, adopted by the XX General Assembly of the International Union of Biological Sciences, 1985.
-
- キーワード: コナチャタテ; 学名; 和名.
Keywords: Book lice; *Liposcelis*; scientific and Japanese names.